

す。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 検討を進めていただくということで、ここはお願いしたいと思います。

長井紬あるいは呉服店を含めてなんですが、コロナ禍で販売会もできない、非常に厳しい状況であるということは、改めて感じました。その中で、この長井紬は伝統的工芸品に指定されていて、貴重なものだと思います。例えば道の駅川のみなと長井にインバウンドなり、市外から来られた方がまちの中を散策するときに、和服で歩くとか、あるいは長井市民が長井紬、1人1品キャンペーンとか、そんな形で応援できればと感じたところです。

また、経済産業省では伝統的工芸品産業支援補助金などもあって、今年度は94件が採択されております。それらも活用しながら、厳しい状況ではあるんですが、もちろん長井紬自体は構造的な問題などもあって、そう簡単に振興するとはいかないのかもしれないんですけども、これを何とか続けていくというために、いろんな方策を検討していただければと思ったところです。

ご答弁ありがとうございました。以上で質問を終わります。

### 鈴木富美子委員の総括質疑

○平 進介委員長 次に、順位4番、議席番号10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 清和長井の鈴木です。

令和2年度の決算総括質疑をさせていただきます。

初めに、6款農林水産業費、1項農業費、3目農業振興費、104新規就農・移住定住促進事業について、5つお聞きしますが、全て農林課

長にお願いいたします。

初めに、新規就農・移住定住促進事業は、農家の高齢化及び農業後継者の減少が進む中、新規農業者を市外から誘導し、移住定住へと結びつけるとしております。市外から誘導する手だてはどのようにしているのか、どのように募集しているのかお聞きいたします。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 お答えいたします。

農業従事者の高齢化や後継者不足により、耕作放棄地が増加しております。その担い手不足が大きな課題でございまして、新たな担い手としまして、新規就農者への期待が高まっております。国の政策の後押しもございまして、本市では地域農業を支える大切な担い手として、新規就農を目指す方々を積極的に支援するために、平成28年度に新規就農者に対する移住支援、生活支援、農地等の賃借料支援、機械施設整備支援、家賃支援などの本市独自の支援制度を創設いたしまして、その財源に充てるため、1,000万円の長井市新規就農及び移住定住促進基金を設置したところでございました。

支援制度といたしましては、当時、県内で最も充実し、現在におきましても、他自治体に見劣りしない制度であると考えているところでございます。

しかしながら、移住新規就農者の確保が大きく進まないのは、移住定住の促進が全国的な流れにあり、本市の知名度不足や魅力の情報発信力不足、支援が新規就農希望者のニーズに応え切れてないという課題がある、このように考えているところでございます。

一昨年暮れから蔓延する新型コロナウイルス感染症の影響で、新たに農業で活路を見いだそうと検討する方が増えていると言われております。

委員ご質問の趣旨のとおり、今後も地方創生に係る移住新規就農者の確保と支援は重要な施

策でございまして、本市農業の担い手確保を図るには、まず、移住希望者に長井市を選択してもらうための情報発信、次に、農業のイメージとのミスマッチを防ぐ農業体験、そして、そこから先の移住定住につながる切れ目のない支援が重要と考えておりまして、そのような取組を進めてきているところでございます。

就農地として選択され、移住定住につなげるための情報発信では、農業支援のPRだけではなく、長井市の魅力と暮らしぶりをより現実的なものとして伝えることが重要であると考えているところでございます。

そのため、首都圏等で開催されます、農業情報イベントでございまして、新・農業人フェアやマイナビ就農FEST等へ出展いたしまして、本市におけます農業や暮らしの魅力、支援制度を情報発信してきたところでございました。

昨年度はコロナ禍の影響によりまして、直接出向いての勧誘活動ができませんでした、オンラインブースで出展してまいりました。

そのほかにも、長井市東京事務所やふるさと長井しあわせ応援大使のご協力をいただきまして、長井市の暮らしや地域資源などに関するシテプロモーションを推進してまいりました。

また、フェイスブックやツイッターなどのSNSを利用する方は年々増えておりまして、就農先の選択にも、そのような情報源が有効であると考えております。市のホームページにおきまして、移住定住や新規就農のためのPRを行ってまいりましたが、農業を考えている方、興味を持っている方へより具体的な情報を発信するため、長井市農業研修生等受入協議会で、独自の情報発信を行う、就農のススメ、「毎日が一所懸命～農がある暮らし“長井”」というタイトルで、長井市の魅力、就農のための支援制度、協議会の事業、農業研修生や新規就農者の声などを紹介するホームページを、昨年度立ち上げ、PRに努めているところでございます。

農業に興味を持ったものの、実際はどんな感じなのか、自分にできそうなのか不安な方も多くと考えております。実際に農業の現場で、長井市農業研修生等受入協議会の農家の皆様のご協力をいただきながら、日帰りから3泊4日の短期就農を体験する事業を行っております。よりリアルな就農のイメージを持っていただきまして、その後、本格的な就農、就業に向け、研修を開始しまして、さらに独立就農へ進んでいただけるよう、国や、先ほど申しあげました本市独自の就農支援制度を準備しているところでございます。

就農してからも、経営安定には時間と費用を要しますので、各種支援制度を紹介しながら、また、新規就農者が求める支援の在り方を検証しながら、関係機関との連携の下、一緒になって独立経営を目指してまいりたいと考えております。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 いろいろな手だてをなさっていることは、私も知っていますし、すごくいいことだなと思っておりますが、やはり全国でみんな一斉にやってるわけですね。そうしますと、雪国という点では、皆さんの反応はどうなのか、その辺は農林課長、どうでしょうか。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 全国のFESTとかに参加したときに、どうしてもブースの人气に差がございまして。どうしても東北地方、そして、日本海側、こちらのほうはなかなか厳しいという報告を受けております。

それはやっぱり取りも直さず雪というところが、支障になるのかなと思っておりますが、ただ、その雪を生かした農業もございまして。そういったPRの仕方もあろうかと、今、考えているところでございます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 雪国は寒いというイメージだけではなく、やはり農林課長おっしゃるように、雪を利用して、先ほど勝見委員がおっしゃったように、近くにスキー場もあるしということで、そんな遊びの点も充実してもらえば、移住もちょっと増えるのではないかなと思っております。

先ほど農林課長の答弁の中で、2番目の質問に対して答えがあったような気がしたんですけども、令和2年度は新型コロナウイルスで東京のほうに行けなかったということで、オンラインで募集したとお聞きしましたが、令和2年度は何人の方が長井市に興味を持たれたのか、その点はどうでしょうか。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 いろんな情報を発信した結果、昨年度、農業体験をされた方は6名、うちご夫婦で1組ということでございます。6名のうち、2名が本市に移住しまして、受入れ農家の下で現在、研修を受けているところでございます。

ちなみに、調査を始めました平成16年から令和2年度までの新規学卒やUターン、新規参入の新規就農者数でございますが、78名となっております。直近の新規就農者数は令和元年度で4名、令和2年度で5名となっております。

また、令和元年度の4名のうち1名が県外からの移住、新規就農者となっております。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 そうしますと、1名の方は現在も頑張っておっしゃるということですが、1年にはなるんでしょうか。何月頃こちらにいらして、何を作っておっしゃるか、その辺分かりますか。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 県外から移住なされた方は、令和元年度からでございますので、1年たったところでございます。施設園芸ということ

で、プチトマトを栽培して頑張っておられます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 そうしますと、周りの方とも交流をなさっていると思いますが、孤立しないように配慮なされているのかどうか、お聞きしたいと思います。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 長井市農業研修生等受入協議会のほうでも、しっかりサポートさせていただいております。新規就農者が1人で見知らぬ土地に来るとなかなか難しいのかなと思っております。

今後、新規就農者の確保に当たっては、少しグループというあたりも考えなきゃいけないのかなとは考えているところでございます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 やはりせっかく移住しようとしていらっしゃる方を、周りでサポートするということは大事だと思いますので、今後、注意していただきまして、いろんなサポートがあると思いますので、よろしくお願いいたします。

3番目ですが、9月7日の山形新聞ですが、置賜地域の若手農家が全国の就農希望者に農業の魅力や現実を伝えるオンライン交流会が開かれたと紹介がありました。オンライン上には、米沢市、長井市、南陽市、白鷹町、高島町、飯豊町、川西町の就農2年から10年の7人が登場したとのことでした。その方々の話では、それぞれにやりがいがあるということでしたが、前職より収入が減ったという人が大半だということが載っていました。しかしながら、自分のしたいことができる喜びはお金に代え難いという方も、紹介記事にありました。私がどんな長井市独自の支援をしていますかとお聞きしたら、農林課長が全ておっしゃってくださったので、先ほどとつながる話ですけども、就農した後の経営不安に対して、もう少し独自の支援は必要で

はないかなと思いますが、その点いかがですか。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 先ほど、長井市の独自支援についてご説明させていただきましたけども、もう少し詳しい支援内容について、ご説明させていただきたいと思います。

農業の仕事をスタートさせるには、ある程度の初期費用、初期投資が必要となります。様々な就農支援制度をうまく利用することが経営の安定化につながると考えているところでございます。

本市の独自の支援制度の概要といたしましては、国の農業次世代人材投資資金を受給していることが前提となっておりますけれども、まず1つに、長井市に移住し農業の研修または就農する方への移住支援といたしまして、補助額40万円、そして、研修期間中の生活支援といたしましての補助金、月5万円、受給期間は最長2年間というようになっております。

続いて、独立就農者の農地等の賃貸借料支援といたしましての補助金、賃借料の2分の1、3年間となっております。

そして、独立就農者の機械施設整備支援としての補助金、上限がございますけども、費用の2分の1から3分の1、そして、研修、就農中の家賃支援としての補助金、年間賃借料の2分の1、3年間などがございます。

先ほど申し上げましたとおり、県内他市町村の支援状況を比べましても、本市の支援策というのは充実していると考えているところでございます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 3年間は何とかやっていけそうな話ですけども、農業はそんなぱっともうかるような仕事でないと私は思います。やっぱり地道に育てていかなくちゃいけないなと思いますが、3年後のことについては、特に長井市としては、今のところは何にもないとい

うことですよ。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 現在のところ、市の独自の支援策ということでは持ち合わせておりませんが、国のほうの制度、県の制度、こういったものも十分に活用しながらと考えています。

委員おっしゃるとおり、3年では足りないというお話でございますけども、国の調査によりますと、新規就農して6年、そのときの農業所得ということでは、2,000万円以上が3割、200万円以下が3割となっております。やっぱり農業はそう簡単に収益を上げる職業ではないということでございますので、委員おっしゃるとおり、息の長い支援制度というのは、やっぱり必要なのかなと考えているところでございます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 私もそのように思います。やっぱりせっかく長井市が好きでいらしてくださった方は大切にしたいなと思っておりますので、いろいろ独自に考えていただきまして、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどから、人口が減りますよという中で、農業分野での定住も大きな役割があると思います。その中で、例えばトマトだけじゃなくて、特産品と言ったらおかしいですけども、私、小さい頃、農林課のご指導を受けながら、父親がオウレンという薬草を空き地にどんどん植えていた覚えがあります。副業と言うのはおかしいですけど、そういうことも必要なのではないかなと思いますが、商品開発などについてはどうでしょうか。農林課長にお聞きいたします。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 お答えいたします。

まず農業に興味を持っていただくきっかけというのは、どんなものだろうと考えますと、アウトドア好きだから小さな頃から植物を育てるのが好きだ、楽しかったなど、土に触れ、自然

を肌で感じるのが好きだからという理由で、農業を目指す方が多いようでございます。

また、最近ではスローライフやオーガニック食品のブーム、食の安全に対する関心が高まってきたことから、農家に興味を抱き、農業の道へ進みたいと考える方も増えているようございます。

委員ご指摘のような、地域の特産品やブランド作物やこだわりに興味を持って、ほれ込んで就農する方、また、その特産品を生かして6次産業化を目指す方もおいでになると思います。

また、単に農業をやりたいというよりも、珍しい野菜を自然農法あるいは有機農法でこだわった野菜をネット販売したり、飲食店と直接契約したり、新しい自分が活躍できるビジネスとして捉えて就農する場合もあると考えております。実家が農家だったり、テレビ番組を通してだったり、農作業に興味を持つきっかけになった媒体は人それぞれでございますけれども、その多くが働く人の姿を通して、農業に魅力を感じる方が多いというふうにご覧いただいているところがございます。

また、過日開催され、委員よりご紹介ありました、就農希望者と置賜地域の若手農家とのオンライン交流会で、先輩移住者から自分がやりたいことをできる喜びは何事にも代え難い、やりたい仕事に打ち込めることは大変でも幸せを感じることができるというふうにご覧いただいているように、農作業に向かう姿が生き生きと楽しそうに見える、自分もやってみたいと思うのが自然でございまして、農業を目指す若者を増やし、定住につなげるには、農業の魅力とともに田舎暮らしから理想とする自分のライフスタイルを発見できるように支援し、その実現までを支援する細やかな応援体制が重要と考えているところがございます。

農業に興味を持つきっかけは各人各様でございます。特産品の開発は一朝一夕には進みませ

んけども、各人の理想と意思が実現できる、幅広く柔軟な対応、窓口、支援が必要と考えているところがございます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 コロナ禍におきまして、オンラインというコマースできる媒体ができたのではないかなと思います。田舎暮らしのコマースをするには、農林課長がおっしゃるように、アウトドアだったり、オーガニックだったり、6次産業とか、カフェをやりたいとか、いろんな人が世の中にはいっぱいいますので、ぜひ、その辺をオンラインをうまく使いながら、長井市の魅力を大いに発信していただきたいと思います。

一人でも多くの方においでいただく施策は、オンラインとか、今、Z o o mとかいろいろありますけれども、農業の専門家が農林課のほうにいらっしゃればいいかなと。時々のおきに行ったりとか、アドバイスできるような方が必要と思いますが、その点いかがでしょうか。

○平 進介委員長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 新規就農者に寄り添った支援という意味では、専門員というのも一つの手だてかなと考えているところがございますが、新規就農者が特に掲げる課題といたしましては、営農技術の習得、農地等の生産基盤の確保、相談窓口探しなどがございます。

営農技術や経営相談につきましては、新規就農支援に関わります県、市、JA、農業委員会などの関係機関で情報共有いたしまして、専門的な指導を受けることができるように連携を図っているところがございます。

また、経験豊富な農業者で組織されました長井市農業研修生等受入協議会でも、新規就農者の相談、支援活動のご協力をいただいているところがございます。

相談内容や求められますアドバイスもより専門性の高い内容となっておりまして、そ

それぞれの分野に精通しました、関係機関の横のつながりが、今後、さらに重要になってくると考えているところでございます。

一方で、移住してから地域生活になじんでいくには、地域の皆さんのサポート支援はもとより、就農してからも様々な生活相談に乗って、一緒になって課題解決、相談対応する伴走型の支援体制が必要であると考えているところでございます。

移住先としての本市の魅力のPR、移住希望者や移住者の様々な不安や心配事に対し、専門の窓口につなぐ専門員の配置につきましても、農業に限らず、移住定住を進める上で重要と考えておりますので、移住定住推進の所管課の地域づくり推進課と検討をしてみたいというように考えております。

また、全国的に新規就農研修生の離農率が高いと言われ、その研修前の準備期間が重要と考えているところでございます。地域おこし協力隊の制度を活用するなどしまして、切れ目のない継続した支援体制について検討をしてみたいと考えております。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 やはり切れ目のないというのは大事だなと思います。長井市に来ていただいた方が長井市を発信できるように、長井市民は思いやりがある、人がいいとよく言われますので、ぜひ、課をまたいでいろんな分野でサポートしていただければと思います。

今まで建設課でしたら技術専門の職員とか、農業に関しては農業専門の職員がいらっしゃると思いますが、これは市長にお願いすべきことなんですけど、ぜひ、今後考えていただきまして、農業で頑張るとい方がいらっしゃれば、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

1項目につきましては以上です。

続きまして、2款総務費、1項総務管理費、8目市民相談費、005婚活事業について、3項

目にわたって市民課長にお聞きいたします。

平成22年度から令和2年度までの成婚は14組とお聞きいたしました。少しずつ成果が表れていると思います。登録者数も113人と増えているようですが、新型コロナウイルス感染症でお見合いパーティーができなかったと思います。今までのお見合いパーティーで苦労されたことは主にどんなことでしょうか、お聞きしたいと思います。

○平 進介委員長 渡邊恵子市民課長。

○渡邊恵子市民課長 お答えいたします。

婚活支援事業の要となる、お見合いのセッティングやパーティー企画など、出会いの場の創出は平成22年度に設立した、長井市婚活サポート委員会が主体となって実施しております。

委員会では、結婚したいと考える方にご登録をいただきまして、市から委嘱した15名の婚活サポーターの皆さんにその希望をかなえるための活動を行っていただいております。

お見合いパーティーについては、婚活中の方がいかに参加しやすく、また、いかに興味を持ってもらえるかという点に重点を置いて企画しておりますが、これまで実施したものとしては、首都圏から女性を募るツアー型ですとか、再婚希望者限定型、また、サービス業、シフト制勤務の方向けの平日開催型など、対象者に合わせた多種多様なパーティーを、令和元年度までは年間五、六回開催しておりました。

新型コロナウイルスの影響もあり、令和2年度は3回ほどの実施となりましたが、パーティーを開催する上で特に苦労する点としては、女性参加者の確保という問題です。女性の割合が比較的多い医療従事者ですとか保育士の方などは、コロナ禍においては感染リスクを考慮せざるを得ないということで、さらに苦労がありました。

また、コロナ禍でパーティー自体の開催そのものが困難となり、出会いの場を思うように提

供できないという壁にも直面しましたが、こういった状況の中でも、パーティーができない代わりに、委員会の活動を知ってもらうためのリーフレットの作成など、婚活中の方への情報提供や交流のきっかけづくりとなる有意義な活動ができたのではないかと考えております。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 婚活サポート委員会の方には、本当にご苦労かけているなどと思っております。

15名の婚活サポーターがいらっしゃるということですが、年代は様々なんですか。

○平 進介委員長 渡邊恵子市民課長。

○渡邊恵子市民課長 お答えいたします。

婚活サポーターの方の年代ですけれども、40代から80代までの幅広い年齢層の方に活躍をいただいております。

内訳を申し上げますと、40代の方が4名、50代の方が1名、60代の方が4名、70代の方が5名、そして、80代の方が1名となっております。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 この新型コロナウイルス感染症で、家族の在り方が変わったなど私は思います。先ほど婚活サポーターに80代の方がいらっしゃるということは、独り暮らしの方も1人では寂しいかなということで、婚活サポーターの方がいらっしゃるのかなと思います。

1人でいれば病気になったときとか不安なので、やっぱりそういう方の婚活もありかなと思いますので、その辺、力を入れていただければと思いますが、この婚活につきまして、今後はどのように、こういう事業を捉えていくのか。例えばこのままではパーティーはしばらくできないような気がしますし、オンラインということも必要なのかなと思いますが、その点いかがでしょうか。

○平 進介委員長 渡邊恵子市民課長。

○渡邊恵子市民課長 お答えいたします。

コロナ禍が、例えば家族の在り方ですとか、婚姻届の件数などにどう影響しているのかは、ちょっと不明ですけれども、市といたしましては、コロナ禍に左右されない対応として、婚活サポーターの皆さんのお力をお借りしながら、積極的な登録者の掘り起こしを行うことが一番の方策と考えております。

先ほど、委員のほうからご紹介いただきました、14組成婚という実績の大きな原動力は、婚活サポート委員会のサポーターの皆さんの人と人とのつながり、そして、情報力によるところが非常に大きく、令和2年度末の登録者数の合計113名という数字は、5年前の合計62名から倍増と言っていい登録実績となっております。

また、南陽市、白鷹町との2市1町でのイベントや情報交換、さらには県などが主催する婚活会議などでの情報交換も積極的に進めながら、広域でのカップル成立にも結びつけたいと考えております。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 委員の方は、随分努力なされてるなど改めて思ったところでした。

やはり委員の方の足、そして、顔と顔がつながってるという、人と人とのつながりが本当に大事だということを改めて思ったところです。

しかしながら、やっぱりオンラインということも私はちょっと必要なかなと。もうちょっと若い人たちが参加できるような、県外とのお見合いもできるのではないかなと思いますけども、その辺はどのように思いますか。

○平 進介委員長 渡邊恵子市民課長。

○渡邊恵子市民課長 お答えいたします。

冒頭でお答えいたしましたとおり、コロナ前までは市内男性と首都圏女性による婚活イベントなど、10名から20名程度のパーティーを開催しながら、カップル成立を目指してきておりましたが、新型コロナウイルスの影響によりまし

て、令和2年度は人数を絞り、時間も短縮し、半分のイベント回数となり、今年度はまだ一度も開催できていない状況です。

ご提案のオンラインお見合いやZoomでのパーティーはコロナ禍での有効な交流手段であり、時代の趨勢でもあると思いますが、参加者各個人の操作レベルにも差がありまして、課題も多いのではないかと考えております。

また、人と人とのつながりが非常に重要なデリケートな事業でもありますので、画面越しでその人となりを読み取れるかという根本的な問題もあるのではないかと考えております。

まずは、婚活サポーターの皆さんとの協働体制での個人対個人の地道な引き合わせに注力をしつつ、時代に合った仕組みづくりを考えてまいりたいと考えておりますので、引き続きご指導、ご提案のほう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 婚活サポーターの方には本当に頑張っただきまして、いろんな場面でいろんな人からいろんな情報をもらえるような方法も考えていただきたいと思ひますが、その点はどうでしょうかね。

○平 進介委員長 渡邊恵子市民課長。

○渡邊恵子市民課長 お答えいたします。

今、申し上げましたとおり、本当に婚活サポーターの皆さんには、それぞれの力を發揮して活躍していただいていると思ひます。15名の婚活サポーターのうち、令和2年度については多い方では4件のお見合いのセッティングをしていただいた方もいらっしゃいます。

引き続き、近隣市町とも連携しながら、婚活サポーターの皆さんが活躍できるような事業展開を、事務局としても考えていきたいと思ひます。

○平 進介委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ、婚活サポータ

ーの方には引き続き頑張っただきまして、少しでも多くの方が結婚できるようにお願ひしたいと思ひます。

また、2市2町のみんなでつなぎ合っ、長井市だけでは大変なので、その点も力入れていただきまして、よろしくお願ひします。

私からは以上です。

## 散 会

○平 進介委員長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時04分 散会